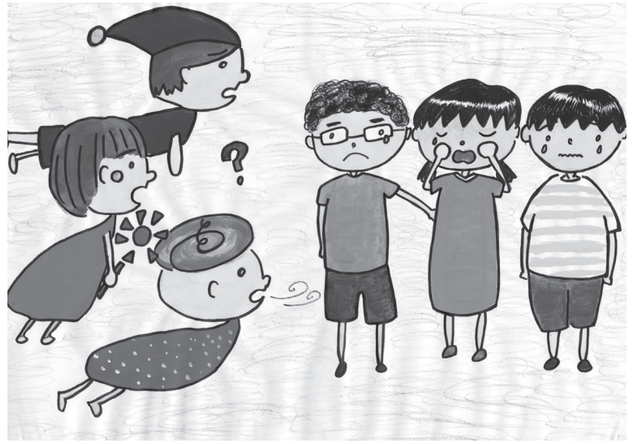
①

創作童話　『水となかよし　雨の子チャプの決意』

「明日から、プール中止だって～」
と、大ちゃんが息を切らして
なかよしのところにかけこんできました。
先生が廊下で話しているのを聞いて、
急いで帰ってきたのです。
「ヒエー、そんなのありかよ。」
真ちゃんが驚いて、
眼鏡をおさえながら、言いました。
「やっぱりね。
お父さんが、この街の水ガメのドンドコダムに、
冬、雪が降らなかったり、
雨も降らなかったりで、
水が半分以下になったって、言ってたよ。」
みずきが浮かない顔で言いました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
address：〒174-0063　東京都板橋区前野町４－８－６
tel & fax：03-3960-6052　　e-mail：info@npo-soe.jp

この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。



②

「遊ぼう！」
雨の子チャプとお日様の子サータ、風の子フーがいつものように、遊びにやってきて言いました。
でも、みんななんか変です。
「何かあったの？」
と、サータが聞くと
「最低なこと。
こんなに暑いのにプール中止だってさ。」
と大ちゃんが言うと、
「雨が降らないから、水不足なんだって。」
とみずきが説明しました。
サータとフーは、チャプを同時に見ました。
「チャプ、チャプの力でどうにかならないの？」
とサータが言うと、チャプは、
「おれはさ、子どもだから、
シャワーぐらいの雨しか降らせられないんだよ。」
と、なみだ声になって言いました。

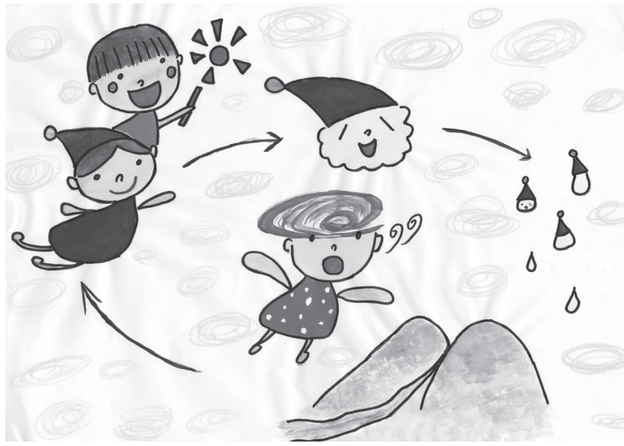
特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

③

サータが、
「チャプのおじいさんとおばあさんの
チャプジーとチャプバーって、
すごい雨の力を持っているって
お日さまに聞いたことがあるよ。
頼んで見たらどうかなあ。」
というと、フーも
「ぼくの風でチャプを送ってあげるからさ。」
と励ましたので、
チャプは涙をげんこつでこすりあげ、
顔を上げました。
「たのんで、たのんで。」
とみずきが言うと
「一生のお願い、プールに入れさせて！」
と、大ちゃんが　大げさに両手を合わせて
拝んでいます。
「雨を降らせてくれたら毎日遊ぶからさ～。」
と、真ちゃん。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。



④

ついにチャプが、
「遠い山の方の川にすんでいるらしいけど、
そんなに困っているんなら。」
と言いながら、握りこぶしを作りました。

お日様の子サータが光をあてると、
青い帽子のチャプは、姿が見えなくなりました。
水蒸気になったのです。
フーがふく風と共に、
チャプの水蒸気は　空高く昇っていきました。
昇るにつれ、体が冷えてきて、
水の粒に変わり、さらに冷えると氷の粒になり、
大きな雲の仲間になりました。
チャプの雲は、フーの風に乗って、
チャプジー、チャプバーの居る
山の方にやってきました。

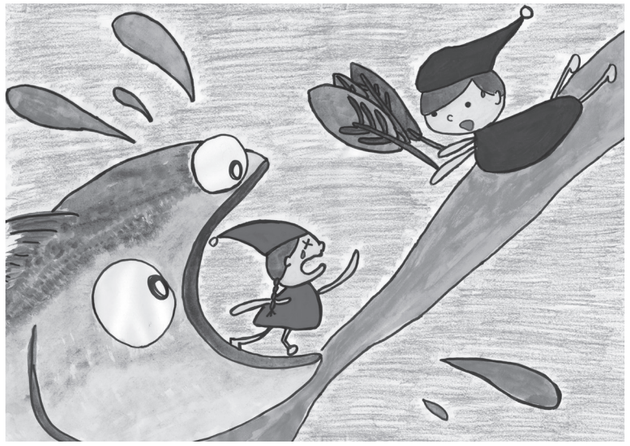
特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑤

そこで、チャプは雨となって降り注ぎ、
とうとう川につきました。
フーが大きく手を振って去っていくのが見えます。
チャプは心細くて、ブルブルッと体をふるわせました。
「チャプジ～　チャプバ～　どこにいるの～」
田んぼの隅の方から、顔を出した者がいます。
「おれはナマズのジャイアントヒゲだ～。
チャプジーとチャプバーは、行ったばかりだ。
銀色の帽子をかぶってな～。」
すると、すぐそばから、顔を出しては潜り、
また出して何か言っている者がいます。
「僕は、ドジョウのヌルヌルット。
ジーたちは、ここでいつも遊んでいた
赤い帽子の　雨の子ランちゃんが
ゲリラ豪雨にさらわれたので、
助けようと行っちゃったのさ。」
「おれは、チャプジー、チャプバーの孫のチャプです。
助けてもらいたくて　会いに来たんです。
教えてくれてありがとう。」
チャプは、流れに飛び込みました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

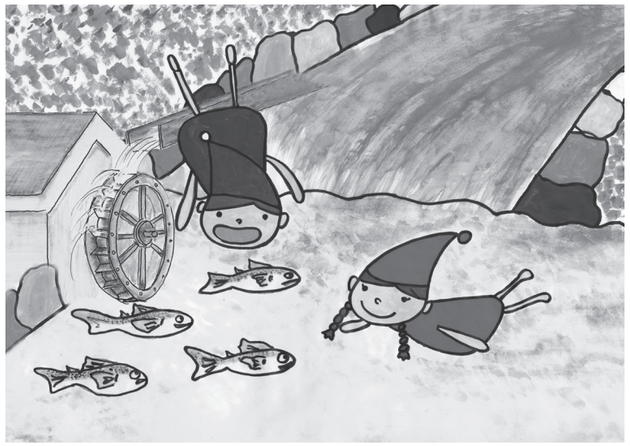


⑥

一人ぼっちのチャプの冒険が始まりました。
間もなく、ゴーという音が聞こえました。
目の前の流れが、急に切れてチャプは、
真っ逆さまに何十メートルも落とされました。
滝つぼです。
そこに、赤い帽子が　何かの口から
出たり入ったり　繰り返しているのが見えました。
イワナのクチデカデカです。
「アッ、赤い帽子はランちゃんだ。大きな口に
　クチデカデカにやられている。」
チャプは、全力でクチデカデカの口に
落ちてきた葉っぱを押し込みました。
すると、葉っぱを食べ物と思ったクチデカデカが、
ランちゃんを吐き出しました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

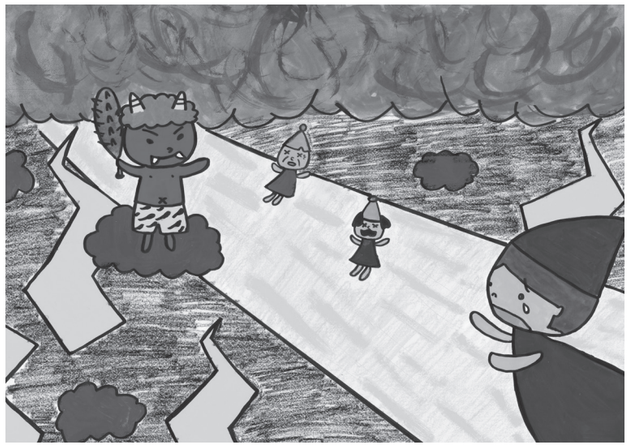
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。



⑦

「ランちゃん、
おれ、チャプジー・チャプバーの　孫のチャプ。
早く、下流ににげよう。」
「チャプ、助けてくれてありがとう。」
やっと、そう言ったランちゃんは、
チャプにつかまって、滝つぼから脱出しました。
流れの早い岸辺に、小さな水車が勢い良く回り、
そばにサラサラ川水力発電所と書いた
建物がありました。
「水って、電気も作れるんだね。」
とチャプが感心して言うと、
ランちゃんは
「チャプジーが、水で電気を作れば、
二酸化炭素を出さないから
地球は熱くならないし、空気も汚さないって。
水はずっとなくならないからいいって。」
といったので、チャプは水の力って、
すごいんだとびっくりしました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。



⑧

ふと見上げると、空に黒雲が広がっています。
おまけに雷が光っています。
すると、黒と金色のうずに乗った
雷の子ピカピカドンタが現れました。
ドンタは、空と地上を結ぶ稲光の橋を
一瞬でつくりました。
あっという間に、
空に巻き上げられていく者がいます。
「銀色の帽子が見える！」
「チャプジー、チャプバー、まってくれ～。」
チャプの声に、
雷の子ピカピカドンタは
「ここまでおいで、弱虫毛虫。
はさんですてろ！」
とチャプをからかいながら、
ドカーン、ドカーンと足音をさせて
空高く昇っていきました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑨

「おれは仲間に約束したんだ。
だから、ピカピカドンタが何を言っても、
負けずに追いかける。」
「私もチャプに助けてもらったから、
今度はチャプを応援する番。一緒に見つけるわ。」
「ありがとう。ジーたち喜ぶだろうなあ。」
そう言いながら、二人は海へと流れていきました。

海面に波で発電して光り、
船に位置を教えるブイが　波踊りを踊っています。
空から、強い風に交じって
雨つぶがふきつけてきます。
「アッ、あそこに銀色の帽子が見える。」
ランちゃんが、黒雲を指さしました。
「チャプジーとチャプバーだ。待ってくれ～。」
チャプは、ついに決断しました。
「よし、風に乗って、空へ昇るぞ。」
チャプとランは、わずかな光に反応して、
あっという間に水蒸気になって空へ昇りました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑩

「巨大台風だ。渦の中に巻き込まれていく。」
チャプとランは、あたりを見渡すと、
チャプジーとチャプバーの帽子が、
渦の中を回っているのを見つけました。
そばに、ピカピカドンタが二人を見張っています。
雨の力を持つ二人に、
雨を降らせようとしているようです。
地球が自分で回る自転の力で、
この辺の風は、西から東へ向かって吹くので、
台風もどんどん西から東へ向かいました。
陸に上がった巨大台風は、山々にぶつかり、
うずの勢いも、あっという間に
ビュードロドロとよわまっていきます。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑪

ジェット気流に飛ばされて、
チャプジーたちの雲が　チャプたちの雲と
いっしょになってしまいました。
見ると、目の前にチャプジーとチャプバーが
いるではありませんか。

ピカピカドンタは、暴れすぎて疲れきり、
ひっくりかえっています。
「チャプジー、チャプバー、孫のチャプです。
おれの住んでいるところは、飲み水も不足して、
お風呂もプールも入れなくなりました。
ドンドコダムの方で、雨を降らせてください。
ピカピカドンタさ～ん。
一緒に来て雷を鳴らしてください。」
「何なに、雷を鳴らしてくれって。
やってやるともさ～。さあ、行こう。」
ピカピカドンタが大喜びして立ち上がると
「私たちの孫が、町の人のために、
勇気を出してここまで来たとは、驚きだわい。」
チャプジーとチャプバーはうなずき合って、
ドンドコダムの方へ向かいました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑫

ダムの近くにやってきたピカピカドンタは
ドンガラドンガラ、好きなだけ雷を落とし、
チャプジーとチャプバーは、
山々やダムにしっかり雨を降らせました。
チャプジー、チャプバーはお日様の言う通り、
ゲリラ豪雨と違って、雨の天才でした。

そして、豊かになった水のおかげで、
町々に、川が水を運んでいきました。
地下水もたっぷりたまりました。
川岸にある水車では、
勢いのいい水力で発電をして、
電気をたっぷり村の家々に送っていきました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑬

ようやく町にもどったチャプは、
ランちゃんを連れて、
みんなのところへ行きました。
「チャプ！　明日からプール再開だって。」
と大ちゃんがピョンピョンしながら言うと、
「お風呂も入れるって。チャプのおかげね。」
とみずきが心から感謝してチャプを見ました。
「チャプ、友達が出来たんだ。すごいなー。」
サータとフーが感心しています。
「チャプ。どうやって、帰ってこられたの？」
真ちゃんはワクワクしてチャプを見ています。
チャプは、初めて胸を張りこういいました。
「水はどんどん姿を変えて移動できるから、
戻ってこられたんだ。
水は電気もつくっていたよ。」
七人になったなかよしは、
真っ青な波がたつプールを見て、
手をつないで、飛び上がりましたとさ。

《めでたしめでたし》

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。